

平成19年度 第2回 志度高校学校会議報告書

2007.12.20

日時 平成19年11月22日(木) 14:20~16:20 (於 志度高校視聴覚教室)

出席者

生徒 佐々木梨絵(会長)、星野彩花・猪池郁也(副会長)、荒瀬ひろみ・朝比奈佑斗(3年代表理事)、藤岡彩・北山哲平(2年代表理事)宮房由依・川田千緩(1年代表理事)

保護者 野崎緑・木村昌枝(副会長)、佐藤里見・砂川章代・石井敬子・西村政高(保護者代表)

教職員 穴吹忠義(校長)、天野徹・山本恵三(教頭)、八木康彦(事務部長)、田中純一(教務主任)、檜垣太郎(生徒指導部)、高崎雅人(研究企画部)、松口哲也(特別活動部)、近藤敬二(総務部)

事務局 松村穂那(生徒)、遠山邦子(保護者)、溝淵正起・山崎藍子・小笠原圭一(教職員)

打掛- 生徒 3名 保護者 1名 教職員 48名

傍聴 31名

議事録内容報告

(1) 学校長挨拶

普段だと、夜にやっているが、夜だと参観者の方から見るできないという要望があり、昼間に実施されることになった。この学校会議はお互いに話し合い、学校をよりよくするためにある。寒い中であるが、みなさんで活発な議論をお願いしたい。

(2) 代表委員自己紹介

(3) 議長選出 溝淵正起(事務局教職員)が議長として選出される。

(4) 議事

【授業をよくするための提案について】

生徒側からの提案

昨年度3学期の学校会議で提案したとおり、私たちは授業評価のアンケートを無記名で行うことを望んでいる。本年度の1学期、試験的に無記名で行われた授業評価アンケートについて生徒に意見を求めたところ、生徒の圧倒的多数が「無記名」での授業評価アンケートを支持していることがわかった。その理由として「成績にかかわりそうだから」「正直に書ける」「自分の意見を言えない人がいると思うから」などがあげられている。記名によるアンケートでは、授業の改善にもっとも必要な生徒の本音が聞き出せないということがわかる。また、無記名のほうが真剣に取り組めたという生徒が大半であった。授業評価アンケートにより、授業が部分的によくなってきているという人もいたが、変わらないと答える人が圧倒的に多い。教職員は授業をよくするために、生徒の意見をもっと真摯に受け止め、授業に反映させていくべきではないか。

教職員側からの提案

生徒側とは逆の意見で、授業アンケートを記名式に戻したい。

各教科にアンケートを取ったところプリントにあるように次の3点が見られた。

記名時には書けなかったと思われる前向きな意見や悩み、要望等はほとんどなかった。

授業には関係のない無意味・無責任な内容が増えた。

個人を誹謗中傷する内容が書かれた。

以上の理由により、アンケートを記名式に戻して、授業への積極的な参加を希望する。

質疑応答

職員：アンケート結果の「先生は変わる人もいるけど全く直す気のない先生もいる気がする。先生は変わる気があるのか？」についてアンケートの中で具体的な意見が出ていれば、聞かせて欲しい。

生徒：先生の中にも、自分の考えを持っていてそれを貫いている人がいるが、それを生徒からすると、決していいとは思っていない人もいます。

職員：どういうところを具体的に変えてほしいのか？

生徒：具体的に言うと、黒板に書く字が雑である。それが生徒からすると読みにくかったりする。白の

チョークだけを使わずに、色のチョークを大事なところに使ってほしい。先生に言っても直してくれない。

職員：名前を書くのが面倒くさい・名前を書くのは無駄だからという理由は、無記名でなければならないという理由に直接はならない。成績にかかわりそうだから、後で言われるのは嫌だからという理由については、教師はそうは絶対思っていない。

生徒：アンケートの結果は、1つでも意見があれば全てここに載せている。成績にかかわりそうだとするのは多かったが、面倒だという理由はごく少数であった。

生徒：先生の中には、上から目線で話したり、威圧的な感じで指導をする。こういう先生と共に授業を作り上げることはなかなかできないと思うし、成績に影響しないといわれても、非常にいやだと思う。個人を特定できる記名ではなく無記名でいきたい。

職員：今回無記名で、実際やってみた結果を先生方に聞いたが、無記名でやったことで、今まで言えなかった意見が言えるようになったという感触はあまりないという意見が出ている。悪口を書いていたのもあった。

生徒：授業アンケートはどのように扱われているのか？

職員：授業担当がアンケートを科目ごとにとる。授業担当者が集計する。意見や数字を集計表にする。それを教科の中で話し合い。教科の中で話し合いができれば、教科ごとの回答を学校のホームページにのせている。それに加えて、授業で各担当者から回答を行っている。

生徒：私が経験していた中では、1つの教科でしか回答されていない。先生は1人の意見だと相手にしてくれないのかもしれないが、書く側として、たとえ嫌いな授業でも好きになろうという努力をしているということでアンケートに意見を書いている。

職員：回答が行われていないという点は、申し訳ないと思う。

保護者：いいことは記名で書けばいいと思う。先生を信じて、名前を書いて、どうどうと意見を書けばいいと思う。

保護者：無記名で書けば、素直に書けるということは理解できるので、考慮してほしい。アンケートの回答をほかの先生方と共通理解をはかってほしい。

保護者：無記名アンケートを実施しての先生と生徒の結果が正反対である。アンケートに対する捉え方が違うのだと思う。嫌なことを書いてくるとは思うが、広い心をもって対処してほしい。無記名だから無責任に考える生徒さんも中にはいると思うが、なぜアンケートをとるのかということをしつかりと考えてほしい。名前を書いて堂々先生と話をしたいという生徒は名前を書けばいいと思うし、無記名でないと書けないということであれば無記名で書けばいいと思う。

生徒：アンケートをほかの先生方と比べながら見るということはしないのか。

職員：ほかの先生方と比べながら見ることは可能であるが現在は行っていない。無記名で行った今回は、死ね、きもい、上から注意するな、などなどという残念な言葉が見られたまた、記名で行うことで、普段授業で見ている生徒の状態と、アンケートの内容で見られる状態とのずれが見られる。いい意味でも、悪い意味でも、自分が思っていた授業の展開を変えてみようと思うことができる。

生徒：誹謗中傷は生徒代表として謝る。記名式では「特になし」という意見が多かったのだが、たとえ誹謗中傷であっても、特になしよりはいいと思う。

職員：記名であれば、書いた生徒に答を返すことができる。匿名で死ねと書くことは先生でも腹が立つことはある。特になしというよりは死ねの方が情報があるという意見だが、良い情報ではなく、悪い情報であり、関係を悪化させるだけだ。アンケート結果を複数の先生でみるのは可能である。

保護者：アンケート結果を生徒会の生徒だけでも見ることはできないのか？生徒会としては見たいか？

職員：希望があれば可能ではあると思う。

保護者：実感しないとわからない。死ね、きもいということを書かれて気持ちはよくないだろう。実態を見てほしい。

生徒：授業評価アンケートに書いたことを直してくれた先生は1人だけである。1年生のころから直してほしいところを書いているが、直してくれない。真剣に受け止めてくれているのか？

教職員：ある人にとってはそれがいいこともあるが、他の人からするとそれがいいことではないという捉え方もある。

議長：生徒側の提案の無記名ということについて合意にいたらなかったので、12月のアンケートは従来の方法「記名式」でいきたいと思う。アンケートについて、生徒が見ることが可能であるか、また、アンケートの集計の仕方について、1人で全てするのではなく、複数ですることは可能かということをも2月の学校会議で検討していきたい。

【ロッカーの設置についての提案について】

生徒からの提案

前回の学校会議での結果により、2学期に入ってロッカーのテスト設置を行った。夏休みに教職員と生徒でテスト設置の方法について協議し実施した。基本的な使用ルールを定め、それを守るように生徒に呼びかけ、3年生、2年生の順に設置を行った。1年生は現在テスト設置をしている最中である。その結果、教室の環境や机の周りが以前より改善されたと、好評であった。また、生徒会で使用状況をみたところ、破損などは見当たらなかった。また、今後のロッカーの必要性について聞いたところ、約80%の生徒が必要という回答であった。以上の結果をもとに、生徒としては引き続き、ロッカーの設置を要望したい。

教職員からの回答

生徒用ロッカーを設置することを前向きに検討していきたい。今後、生徒全員にロッカーを設置することになれば、ロッカー使用ルールやそのルールを徹底させる方法などについて決めていかなければならない。また、ロッカーの購入費用や修繕費用などをどうするかということも決めていかなければならない。生徒と保護者と教職員の代表による検討委員会が必要になってくる。

保護者の考え

保護者のほうとしては、以前と同様で、ロッカーは必要であろうという考えである。使用状況を見させていただいたが、使っている子と使っていない子との差があった。残念だったのは教室内にゴミがとて多かったこと。家庭としても学校に申し訳ない。家庭でもお父さんお母さんに言われていることが学校でできていない。要望だけ言うのではなく、自分がしなければならぬことはしてから言って欲しい。

質疑応答

教職員：ロッカーの設置となると、保護者の方に負担をかけることになるがよろしいか？

保護者：足りない部分を補うのに費用がかかることはしょうがないと考えている。

議長：三者合意したと見え、三者で検討委員会を立ち上げたい。

教職員：金額の目安として、不足150名を購入すると概算で70万～80万かかる。

学校で使うものなので、県費で補えることができればよいのだが、今年度は29万しかない。保護者の方の負担を少なくするようにやっていきたいと思う。

生徒：芸術鑑賞会のお金をロッカーにかけることはできなかったのか？いくらかかっているのか？

教職員：ロッカーを揃えるのとほぼ同じ額である。芸術鑑賞会という名目で保護者の方から集めているので、勝手にロッカーにかえるということはいけません。

議長：検討委員会を早急に立ち上げ、2月の学校会議で経過をお知らせできるようにしたい。

【**【** 考査期間中の部活動のあり方およびテスト範囲の発表についての提案（生徒）について】

私たち生徒にとって、テストに向けて勉強し、良い成績をとることは大切な課題だ。それは、私たちの進路や将来に大きく影響を及ぼすものだからである。そのテストについて、次のようなことを提案したい。

1 テスト期間中の部活動を原則禁止にする。

2 全ての科目で、テスト発表日にテスト範囲をプリントにして配布し、発表する。

普段部活動をしている生徒の中には、せめて試験直前だけは勉強に専念したいという声も少なくない。また、試験の範囲が示される日が教科によってはばらばらで、テストの数日前に範囲が示されるということもある。これでは十分な試験勉強もできない。

質疑応答

教職員：テスト中の部活動について、「部活動後の勉強は集中できない」「欠点をとった場合、今後の練習にも影響がでてしまう」とあるが、具体的にはどういうことか？ 普段の授業の取り組みはどう

なのか？この議題は学校全体ではなく、特定の人に関することだが、これは学校会議にかけることなのか？

生徒： については、一部の部活動は部活動の後に勉強会をしているが、真面目にしている生徒とまじめにしない生徒がいるので、やらないほうが良いということである。 については、欠点を取ると部活動に参加できないということがある。普段の授業の取り組みについては、部活動で帰るのが遅く、睡眠不足から授業中に寝てしまうということもあるので、見直してほしい。

議長： この提案は部活動に入っている生徒だけに関するものだが、志度高校の生徒であればいつでも部活動に参加できるので、学校全体の問題として学校会議で議論することは適当である。

教職員： 部活動で行っている勉強会も禁止する提案だと捉え方でいいのか？

生徒： 集団で勉強をするのでは集中できないという人もいる。

保護者： テスト期間中に本当に勉強するのか？と不安である。家ではなかなか勉強はできないが、この期間だけは部活後、部単位で勉強をさせてくれるので安心だという保護者の意見もある。

生徒： 部活をしている生徒は、普段帰って勉強をすることができないので、テスト期間中ぐらいは考慮して欲しいというのが本音である。

保護者： 部活をしたい子は、逆に届け出を出してするというのはどうか？

生徒： そうなると、届け出を出さないということでやる気がないと思われることになるので難しい。

教職員： 届け出制ということもあったが、個人競技・団体競技もあるので、不都合がでてくると思う。

保護者： 現在のルールは守られているのか？2時間程度という練習時間は守られているのか？

教職員： 推測ではあるが守られている。

教職員： (2について) 生徒が担当まで試験発表を聞きに行くという今までのやり方で何が不都合なのか。

生徒： 聞きにいても、分からない。という先生もいる。

教職員： 試験の範囲のみにかかわらず、自分の情報を集めていく方法を身に付けるのは大切である。小さいころは大人が情報を与えてくれるが、大人になったら自分で必要なものは自分で集めることが普通である。高校生になったら、小学生のとき、中学生の時に先生や大人がやってくれたことを自分で行わなければならないのは当たり前である。試験範囲が決まっていないというのはいけませんが...。自分の情報を自分で得るということは基本ではないのか？

議長： 職員は持ち帰って、2月の学校会議までに回答してほしい。

保護者からの問題提起

保護者： 最近、服装の乱れがひどい。学校会議で決まった靴とかばんのルールも守られていない。生徒からでた要望で変えたのに、守らない生徒がいるということを見逃してはいけない。生徒会として啓発活動をし、ルールを徹底してほしい。

議長： 生徒側は十分な話し合いをして、行動を起こすのであれば何かをして2月に報告をしてほしい。

教職員： 教職員側からも意見をだしたい。

香川大学 柳澤良明助教授からの指導助言

学校は組織だと思う。学校は個人の集合である。個人の意見は微妙に違う。志度高校は1つの社会である。公的な場面での意見の摺り寄せがある。学校は生き物。合意して終わりではなく、動いていくもの。難しい議題であるが、一つ上のステップに上がっているように思われる。

表面的には学期に3回ではあるが、今日までにたくさん時間がかかっている。遠回りのようだが、この方法が近道で確実ではないか。当事者がみんなが納得するということが大事である。

学校長挨拶

ここに参加している生徒会や生徒理事の人は、クラスに帰ってから他の生徒に伝えて欲しい。学校会議の後のみんなの行動がとても大事だと感じた。

事務局より

次の学校会議は平成19年2月6日を予定しています。

以上、志度高校学校会議で協議された内容について報告します。

志度高校学校会議事務局